

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	萩原 真美 【人間発達科学専攻 平成25年度生】	<p>沖縄（南西諸島における沖縄群島）では、本土の敗戦よりも早く米軍に占領され、本土とは別の枠組みで米軍単独の統治下に置かれた。1946年4月から48年3月までは八・四制の学校制度が採用され、社会科に相当する内容は人文科の公民・歴史・地理で、応急的に作られたガリ版刷り教科書によって教授された。48年4月から本土の教科書を使うことになり、それに合わせて六・三・三制が採用された。ただし、本土の社会科の教科書では沖縄が扱われていなかったため、沖縄では歴史の副読本が編纂された。本論文は、上記のような基本的事実を史料の根拠をもって明らかにしたこと、米軍が基地を建設、拡張するなかで収容所から戻った住民によって学校が順次再開された事実や経過を詳細に明らかにしたこと、多数のガリ版刷り教科書や教員が作った教材やノート・教材を発掘してその内容を分析したこと、成立した社会科の内容や歴史の副読本を分析して本土の社会科との違いを指摘したことなど、これまでほとんど手が付けられていなかった終戦直後の沖縄における、教育の再開から社会科成立までの経緯を詳細に明らかにして、多くの知見を新たにもたらした研究と評価される。</p> <p>審査委員会は2018年11月28日に開催された。学位論文としてほぼ完成されていると認められたが、ガリ版刷り教科書の編纂方針であった「沖縄の道」（沖縄の独自性を尊重するという方向性）について、その意味内容を明確にすることなどを求めた。1月31日に開催された公开发表（審査委員を含めて22人出席）では質疑に対して明確に回答しており、終了後に開催された審査委員会では、「沖縄の道」など修正を求めた点が十分に改善されたと判断された。また、外国語の学力も十分であることを確認した。</p> <p>以上の審査の経過および結果により、本審査委員会は、本論文が博士（社会科学）、Ph. D. in History of Education にふさわしいと判断し、合格とした。</p>
論文題目	占領下沖縄における社会科成立史研究	
審査委員	（主査） 教授 米田 俊彦	
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 池田 全之	
	教授 棚橋 訓	
	専任所員 大里 知子 （法政大学沖縄文化研究所）	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	